岐阜大学国際交流センター

No. 22 NEWS LETTER 1996年3月29日

● 目 次 [特集] **岐阜大学キャンパス・ライフ**

ー外国人教師・留学生からのメッセージー

「岐阜大学の学生たち」…… リー，ウィリアム・エリオット …… 2
「『キャンパス・ライフ』と岐阜大学の学生」…… フォン・ホフ，アグネス …… 2
「日本との出会い、外国文化との交流」…… ゲラン，ジル …… 3
「身近にいる人から始めましょう」…… 呉 暁 霓 …… 4
「"Life" in Gifu」…… シード・アサン・チョードリ …… 4
「本音と建て前」…… ミルボード，ファリバ …… 5
「岐阜大学に来て感じたこと」…… アナン・セデョフトモ …… 5
「岐阜大学での研究生活ーある感動の体験」…… 徐 歩 前 …… 6

＊ ＊ ＊ ＊

学術交流協定大学・短期留学体験記

「ルンド大学体験記」…… 番 れい子 …… 6
「短期留学を終えて」…… 後藤 妙子 …… 7
「ノーザン・ケンタッキーでの生活」…… 永田 恭子 …… 7

＊ ＊ ＊ ＊

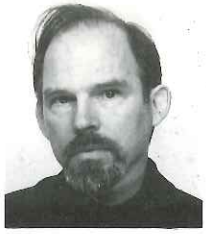
学生課国際交流事務室・職員紹介

「留学生係の仕事」…… 葛谷 和彦 …… 8
「国際交流係の業務」…… 粥川美重子 …… 8

＊ ＊ ＊ ＊

◎1996年度前期日本語クラス時間割表 …… 9
◎国際交流のための奨学寄附金 …… 9
◎1995年度岐阜大学国際交流センター員名簿 …… 10
◎編集後記 …… 林 正子 …… 10

「岐阜大学の学生たち」



リー，ウィリアム・エリオット（アメリカ）

「岐阜大のキャンパス・ライフはどうですか？」と聞かれ，私は以前勉強した七つの大学と私が教鞭を執った七つの大学の今迄経験したことと比較して見たいと思いました。福岡大学と500人の学生が学ぶペンシルベニアの村にあるキリスト教の大学，そして，60年時代，学生運動が盛んだったニュー・ヨーク市の行動主義的New School for Social Researchとレーガン・ブッシュ時代の田園風の州立大学とを比べると，もちろん雰囲気は違いました。だけど，私がとても印象的だと思った点は相違よりも類似した点です：若者は完全な大人であって，充分な時間と自由とを持ち生命の大切なことを充分に熟考しているように思いました。学校の雰囲気ではなくて，大切な人々はいまも深い印象として私の心に残っています。例えば，詩が心のドアをどうあけるかを，または人間より文学を愛する学者は実は文学を愛さないと教えた先生。平凡な大学でも一生懸命勉学に励み素晴らしい先生になった，または卒業後事務員になり，毎年後輩に美しいスタイルの英作文の書き方を教えに来てくれた学生。私のように英語の教師になった，考え方や生き方が私を微笑させるぐらいに違う学生たち。

私は岐阜大学に来て約1年になりますが，大勢の学生達に接して強烈な印象を持ちました。例えば，初期の英会話に弱くても，一生懸命努力し，Aの成績を取った学生，その学生を“先生”のように強いパートナーシップを発揮して助けた学生。優秀ではなくても大きい声で答えて，他の学生を元気づけた学生。居眠りをしたために私が追いだしても，教室から出て行かなかった勇気のある“尊敬すべき”学生；一生懸命互いに助け合っているグループの学生；人種差別について怒りをこめて論文を書き，自分にもその差別の心が潜んでいたことに気づいた学生。

私が今書いた印象は，自分自身の性格を理解したいと思っている学生のものであって，それはどこでも，いつでも同じですが，実際には，そのような学生に対する印象は個人によって異なっているので，どこでも，いつでも違います。

（教養部外国語第1系列，英語担当）

「キャンパス・ライフ」と岐阜大学の学生

フォン・ホフ，アグネス（ドイツ）

私は，昨年の4月から岐阜大学のドイツ語外国人教師として勤めています。私の「岐大」キャンパスの第一印象というのは，素敵な自然に囲まれている新しく明るい建物と，何と言っても「キャンパス」そのものでした。「キャンパス」，ましてや「キャンパス・ライフ」というのはドイツの学生にはわからない現象なのです。ドイツの大学，とりわけ古い大学では学部によって教室や研究室などがばらばらで，まちのあちこちに散らばっていることがほとんどであり，学生たちの生活は町の中に組み入れられていることは，言うまでもありません。それと全く違って，日本の大学のキャンパスは，コンパクトで自立している小世界のように見なされているのではないでしょうか。しかもそれぞれのサークル活動などで，物理的にも大学と結び付いている日本の大学生にとっては，ドイツ人には厳然とあるprivate lifeと大学での日常とのけじめがなかなか想像しにくいのではないでしょうか。ドイツの大学生の場合には，大学と関係ない知り合いや友達との交際が一般的です。日本の大学の特徴と言える後輩・先輩のヒエラルヒー，又盛んなサークル活動はドイツにはまずありません。

以上の外面的な点だけでなく，むしろ向こうの大学生と日本の大学生の性格や態度の違いを比較してみると，集団主義と個人主義との根本的な差異が明らかになると思われます。日本の大学生は，実際の年齢はさ

ておいて，ドイツの大学生より「若い」といってもよいでしょう。それに，ドイツの大学生に比べてずっと控え目でおとなしいのです。このことは，私の意見では，決して悪いことではありません。かえって，よく批判的で大人っぽいと言われ，まじめ過ぎるドイツの大学生に欠けている性質ではないかと思われます。日本の大学生は，一度入学試験さえ合格すれば，あとは遊び半分に大学の時代を過ごす傾向が見られるのに対して，具体的な職業を目指しているドイツの大学生は，かなり難しい卒業試験に合格するために，熱心に勉強するという傾向にあります。それにもかかわらず，ドイツの学生も，学生生活を十分楽しんでいます。（私自身にとっても今までの一番楽しい思い出は，ハイデルベルクで過ごした学生時代です。）しかし，向こうの大学の勉強は，ほとんど「個人戦」なので，多くの学生は孤独や不安を感じるのを否定出来ません。

日本の学生のもう一つの特徴は，「謙虚」なことです。いかに上手であっても，教室で自分の才能をひけらかすことはほとんどありません。或日，キャンパスを散歩していた時分かりました。学生たちは，実に好きで得意な活動をしている時には，授業の時とは別の顔を持っているということをー。運動場では，力に満ちあふれている学生たちが勢いよくハンドボールなどをしていました。彼らが，同じ日の朝，じっと教室に座っていた学生であったと，最初全然分からなかったのです。

最後に，素敵だなと思ったのは，岐阜大学のキャンパスにもドイツと同じように，手をつないだカップルが見られるようになったことです。国際化の第一歩ということでしょうか。

（教養部外国語第２系列，ドイツ語担当）

日本との出会い，外国文化との交流

ゲラン，ジル（フランス）

私が日本に住もうと決心したのは，今から４年以上前のことです。それ以前にも３度来日し，色々な経験をしました。最初の日本訪問は，フランスで一緒に働いた日本人が自分の家に招待してくれたからです。その際，暇と少々のお金があったので，３カ月滞在したのですが，（１カ月半は大阪－東京間の自転車旅行）私には良い経験ばかりでした。日本の人々，食べ物，暮しぶり……全てがとても印象的で，興味深いものでした。

1980年から90年にかけては，ペルー，イギリス，ポーランド，スウェーデン，アメリカに１カ月から１年半滞在し，観光・仕事，勉強等しましたが，ほとんどの場合，行く前にその国のイメージは持たずに訪れました。日本は，これらの国の中で唯一，本当に私を惹き付けた国です。中には，日本を全く好まないフランス人もいますが，好みは個人的なもので，経験も人それぞれです。私が日本を気に入った理由のひとつは，日本の生活，文化がフランスとはかなり違うからです。興味深いのは自分の国と似ている所ではなく，異なる所だからです。この違いのおかげで，自分の国を違った目で見，理解し，良さを発見できます。

私が今願っているのは，日本人，特に岐阜大学の学生たちが私と似た経験をフランスですることで，それは可能だと思います。岐阜大学には，外国との，海外の大学との関係を結びたいという強い意向があるようで，私もまた，それを援助し，学生にフランスへ行く機会を多く紹介したいと願っています。フランス語を選択していない学生に対してもです。私は，生まれ故郷のブザンソンに日仏協会の設立を提案し，岐阜日仏協会と近く提携する予定ですが，これにより，日本人をブザンソン地方へ，フランス人を岐阜へ受け入れるのが，特にホームステイの点で容易になります。岐阜大の学生には，既にこれを利用した人もいます。次の私の大きな考えは，岐阜大学とフランスの大学（ブザンソン大学？）を姉妹校にすることです。両校の関係を深め，交換留学を容易にするのが目的です。

岐阜でもフランス文化に接することができます。岐阜日仏協会の協力により，近々，フランス映画祭が毎年行われることになりますし，岐阜大学でもフランスのカラオケや，フランスの伝統的スポーツ，ペタンクをする事ができます。

私が，以前は何の関心もなかった日本語を勉強する気になったのは，日本に来たからです。語学への興味というのは，その国の文化，生活を体験し，それが良い経験であれば，そのあとで生まれて来るものです。その国でその国の人々と生活してみること，それが外国文化を感じとる一番良い方法，それによって，心もずっと豊かになるのです。

（教養部外国語第２系列，フランス語担当）
（翻訳・髙力千恵）

身近にいる人から始めましょう

呉暁霓（中国）

今の社会の特徴の一つは，世界各国との絡み合いの強まりである。これは，経済の面だけでなく，政治や文化などあらゆる面で非常に盛んになってきました。どの国も，ほかの国との関係の緊密化なしには，一日も生きていくことができないだろう。ほかの国を理解するためには，本や新聞やテレビなどを利用する間接的な方法より効果的なのは，その国の人との交流という直接的な方法ではないか。私は，個人と個人の交流こそ国際化につながっているに違いないと思います。

私の岐阜大学での留学生活はもうすぐ３年目を迎えます。学習の面でも生活の面でも，先生達や事務の方々から指導や助言をいただき，順調に進んできました。私は，大学以外の普通の人々と触れ合いたいという気持ちを抱いて，この２年間に大学やその他の機関が催すいろいろな国際交流活動やイベントに参加しました。

その一方，学生として，私は一番身近にいる大学の友達との交流を大切にしてきました。なぜなら私にとって，一緒に勉学している友達は，私の日本を見る原点のような存在だと思います。当然，彼らにとって，私も外国を見る一つの窓口だろう。私は素顔の自分を彼らとぶつけ合うことで，お互いに正確で客観的な目で異文化を見ることができるし，更に鋭く分析できると信じています。

友達と一緒に過ごした時を振り返ると，人生には様々な出会いがあり，誰かと出会うたびに，同じ人間同志として，その一番身近にいる人との交流を大切にすることさえできれば，きっと国籍や言葉や風俗習慣の壁を越えられ，相手だけでなく，その国のことも理解できると感じました。国際交流を深めて行きたいと思うなら，身近にある人から始めましょう。

（教育学部社会科教育（法律経済）２年）

"Life" in Gifu

SYED AHSAN CHOWDHURY
(Bangladesh)

Three years before when I came to Japan it was mid of January. I came here from tropical country like Bangladesh so I felt some troubles with cold at the beginning. On my third day in Japan for the first time of my life I saw the beautiful snow fall. Three months later when I already adjusted myself with the cold, again for the first time of my life I watched the beautiful cherry blossom. I wondered, the nature was changed suddenly with the sudden appearance of the flowers in all the trees almost at the same time. Every year the members of our laboratory spent a whole day outside and enjoy the cherry blossom. Last three years I spent most of the time in the campus. I am really impressed to see the sincerity, politeness and the disciplined manner of the people of Japan. Every year students International student section arrange some trips to introduce us with the life and culture of Japan. I enjoyed those programs very much. From my childhood I am familiar with the sentence "made in Japan", but now I can realize that what labor they pay for that. I am impressed with the behavior and sincerity of every member of my laboratory from whom I learned much, not only about Neurophysiology but also many other things which are important for life. I will leave for my country next year, but the memory of my life in Japan will remain bright in my mind for long time.

(Institute of Equilibrium Research School of Medicine Gife University.)

本音と建て前

ファリバ　ミルボード
（イラン）

私が日本へ来たのは皮膚科と生化学の勉強のためでしたが，勉強しながらもいろいろな経験ができて，今までとても楽しくっておもしろい生活を送って来ました。

日本に来てから約４年経ちました。この４年間に自分が得た経験はふたつのグループに分けることが出来ます。

一つは日本の文化についてのいろんな経験です。この文化の中では日本語が一番です。日本に来て最初からもちろんいろいろな勉強をしなければいけませんでしたが，日本語は一番大きい問題でした。大学では先生方はみんな英語を話せますので，そのおかげで専門の勉強はなんとか出来ました。問題は普通の生活，たとえば買物などがとても大変でした。しかしほとんどいつも周りの人に教えてもらって少しずつ日常生活の日本語も解るようになりました。日本語が解るようになってからは他の日本の習慣も解るようになりました。それでも解りにくいことは「本音と建て前」で，今でもまだはっきり解りません。私達の国では，いつも自分の気持ちを言葉ではっきり言いますから相手も良く解ります。日本ではときどき相手の話と本当の気持ちは全く反対のことがあります。だから日本に来た時，自分の考え方をはっきり言って相手の人をびっくりさせたことがありました。今ではたぬきになって建て前を言ったりします。それでもまだときどきその建て前を忘れて困る事があります。日本の生活の中で食べ物も私達の食べ物と違がうので慣れるまでに少し時間がかかりました。考えたら一番最初におすしを食べた時にすごく変な気持ちでした。でも今は本当におすしやさしみが好きです。

もう一つは，日本の生活環境です。今住んでいる町と私が母国で住んでいた町はだいたい同じなので私にとっては全く問題はありませんでした。でも一番違うのは，日本の家とかアパートはとても狭いので初めはびっくりしました。どうやって日本人はその狭い所にたくさんの物をしまって置くことができるのだろう？いつも不思議に思っていました。でも今は，私もそれができるようになりました！！

このような経験をしながら今私は日本で勉強することがとても楽しく，また他のたくさんの人生勉強もすることができます。だから今考えたら日本で勉強することになってとても良かったと思います。

（大学院医学研究科３年生，皮膚科学専攻）

岐阜大学に来て感じたこと

アナン・セデョフトモ
（インドネシア）

私は，1991年４月２日に日本に来ました。最初に来た時は，１年間東京で日本語を勉強して，1992年４月に岐阜大学に入学しました。日本に来る前にも今でも日本以外の外国に行ったことがない私は，もちろん日本は外国としてまったく新しい環境で，日本での生活に慣れるまでは，かなり大変でした。同じアジアの国でもインドネシアと日本は，言葉，習慣，物価，食べ物，宗教，人間性，気候など，ずいぶん違います。こんな私は，家族や友達から離れて，せっかく日本に来たのでたくさんの日本人の友達を作りたいと思っていましたが，結局それらの違いでそのイメージと違って日本では友達を作るのは簡単なことではないと気がつきました。特に岐阜に来て，外国人の数は東京よりずっと少ない街として，外国人の存在はまだまだ珍しく思われるだろうと思っていました。しかし，最近になって岐阜大学で勉強している留学生は年々増えてきて，岐阜大学の国際的な環境も見えてきました。これまでの寂しく感じたことをなくして，留学生でも日本人でも仲よくしてお互いにコミュニケーションをはかっていこうといつも私は思っています。

私は，日本に来る前に自分の国の大学でも経験したことがなくて，大学の生活や活動などをまったく知りませんでした。しかし，岐阜大学に入学してから何とか周りの学生をよく理解しながら自分は判断しましたが，やはりさすが外国の大学かもしれないが，変わったことがたくさんありました。例えば，証明はサインでなく印鑑を使い，書くものはボールペンでなくシャープペンシルを使うことなどがあります。自分の国では，教室で寝るのが恥ずかしいことなのに，ここでは学生

が平気で授業中に寝ることをよく見かけます。また，向こうでは学生なんか車を持てないのに，岐阜大学ではそれが当然なことのように見えます。岐阜大学は私にとって最初の大学で，周りの環境はとてもきれいで街から離れて静かに勉強するには最適だと思います。このようなよい環境のある大学なのに，構内で車を路駐したり，自転車を勝手に置いたりするのはとても残念なことです。私は岐阜大学を卒業したら，自分の国に戻りますが，これからの残り少ない学生時代を頑張って過したいと思います。

（工学部応用学科４年）

岐阜大学での研究生活

―― ある感動の体験 ――

徐　歩前（中国）

岐阜大学での勉強生活はまもなく３年が過ぎようとしております。連合農学研究科の博士課程に在籍している私は，これまでの研究成果を３編の学会誌にまとめ，学位論文の公開発表会も無事に終了しました。この３年間，研究生活を順調に進めることができたのは，岐阜大学が留学生に対して提供している好意的な勉学環境のおかげです。

私は静岡大学で修士課程を修了した後，岐阜大学大学院連合農学研究科に入学しました。初めて岐阜大学キャンパスに到着したとき，目にした岐阜大学の周辺は，建物がほとんどなく，山と畑しかない淋しい印象でした。「こんな田舎なのか，街に行くのは遠いだろうな」と感じ，「これから‘足’のない生活は不便だろうな」と心配しました。しかし，この心配は，入学後数週間で解決しました。まず，友人から「留学生係から自転車を借りることができる」という情報を教えてもらい申し込んだところ，たった１週間で，かなり新しい自転車を借りることができました。また，外国人留学生のために発行された市営バスの乗車優待証も大学を通じて手に入れることができ，活動範囲は一気に広くなりました。

約１年後には，原付の免許を取得し，日本人の友人からミニバイクを借りることができました。その結果，私はあちこちに行くことができるようになり，買い物をはじめ生活全般がかなり便利になりました。しかし，ある日このミニバイクが不意に盗まれて愕然としましたが，数日後，警察が見つけてくれました。私は，壊されたミニバイクをどのようにして自宅まで持って帰るか困っていました。そのとき，国際交流の輪∞黒野という留学生を援助するボランティア組織のメンバーがこのことを知って，当日の夜，トラックで壊れたミニバイクを自宅まで運んでくれ，さらに，ミニバイクを再び使えるよう丁寧に修理してくれました。

このような感動をおぼえたのは私だけではないと思います。岐阜大学の留学生は，岐阜大学留学生援助会，ボランティア組織，日本の友人から，電気製品や生活用品などをもらうことができ，特に，外国から来たばかりの留学生に対しては，早く日本での生活に慣れるよう心暖かく接してもらっております。

もし，帰国後，友達が「日本の大学に留学したい」と言ったとき，私の推薦する大学は，勿論「岐阜大学」です。

（大学院連合農学研究科）

ルンド大学体験記

番　れい子

「ニルスの不思議な旅」で知られるスウェーデンの南部，デンマークの近くにあるルンドという町にルンド大学があります。ルンド大学は，町の中に大学があるというより，大学の中に町があるという印象でした。

コースでは，まず英語を学び，その後，スウェーデ

（サマースクール（平成７年８月）ルンド大学へ訪問した折のスナップ　筆者は前列右）

ン語や，スウェーデン，ルンドの歴史などを学びました。また，それぞれの学んでいることにあったルンド大学の学部なども見学し，外国の大学を実際に肌で感じることができました。他にエクスカーションもありデンマークの首都コペンハーゲンやスコーネ地方などに行きました。

ルンド大学の学生との交流として，一人に一人ずつ「メンター」という先輩のような人が付き，パーティーをしてもらったり，家へ遊びに行ったりして，学生の生活を垣間見ることもでき，楽しく過すことができました。

スウェーデンの穏やかな気候の中で暮したこの３週間はすばらしい体験となりました。

（教育学部　学校教育）

短期留学を終えて

後藤妙子

台所，４人位が腰かけられる広さのリビング兼ダイニング，4.5畳の部屋２つ，キッチン，お風呂，トイレ，私達が大変お世話になった浙江大学の教授のお家である。

中国文学の授業の後に，「先生，私達，先生の家に行きたい。」と頭突に日本語で言い，先生の「あっいいですよ。」の返事で，私達の周先生のお宅拝見ツアーが決定した。

照りつける真夏の太陽の下を私達は自転車で，先生の家に行った。簡単に部屋の説明を受け，ダイニングの腰かけに座るようすすめられた。そして，私達は円になり，先生の用意してくれた冷えた西瓜を食べた。

中国での大学生の様子，先生の休日の過ごし方から，家事は，どちらがするんですか？という質問にまで，先生は答えて下さった。

短期留学では，北京にも行き，万里の長城やその他たくさんの有名な名所に連れて行って頂いた。そこでの感動や驚きは，日本では体験できないものであるが，中国を思い出す時，先生と一緒に食べた西瓜の味をまず思い出すのである。　（教育学部　理科教育化学）

ノーザンケンタッキーでの生活

永田恭子

ノーザン・ケンタッキー大学の朝は早い。朝一番の授業は８時に始まる。薄暗いうちからパンを片手に持って校舎に向かう。岐大の３倍はある駐車場はすぐに一杯になる。遅刻は許されない。授業で寝ている生徒もいない。一つの授業は50分間で週３回ある。一つの授業に予習をして望み，次のテストに向けての勉強も必死だ。クラスメートの授業中の発言力には圧倒された。授業の合間には，図書館に通ったり，ジムで運動をする。教科書を枕に廊下で昼寝をする光景は新鮮だった。

はじめて家族や友達と離れての生活は不安だったし，予想以上に英語に苦労をした。けれども，一緒に寝食を共にした２人のルームメイトや親切に助けてくれるクラスメートに支えられて，充実した１年を送ることができた。このかけがえのない経験で得たことをこれからの生活に生かしていきたい。

（教育学部　英語教育）

留学生係の仕事

学生部学生課留学生係長心得 葛 谷 和 彦

早いものである。留学生係に配属されて3年になる。この間に，留学生用宿舎として，国際交流会館B棟（54室）が建設され，平成7年10月から入居を開始した。さらに，平成8年4月には，留学生センター及び留学生課が設置されることとなった。10年若しくは20年に一度あるかないかの重大事業が本年度に集中し，多忙を極めている。

このような状況の中で，留学生に対して「何ができたのか」と振り返ってみると思い当たることがない。不徳の致すところであるが，留学生の増加にともない，地域住民との交流が徐々にではあるが着実に広がってきていることに鑑みると，微力ながらお手伝いできているのかなと自己判断している次第である。

今後は，「留学生に何ができたのか」と結果を求めるのではなく，「留学生と何をすべきか」を念頭に置きながら，模索していきたいと考えている。

また，留学生活が少しで実り多きものとなるように尽力できればと願うとともに，帰国される留学生と「なが～い交流」ができるように日頃から精進していかなければと思っている。

◎国際交流係の業務

学生部学生課国際交流係長
粥川美重子

我が国際交流係は，国際交流センター内にある，国際交流事務室に留学生係とともに机を並べています。わたくしは，昨年4月にこの係に配属されもう1年が経とうとしています。

「国際交流センター」の場所は，工学部棟の北側，第2食堂の東側の旧工業短大ホールにあります。

スタッフは，私と非常勤職員の2人（女性）です。この2人は，以前にこの欄に登場しましたので，御記憶のある方もいらっしゃると思います。

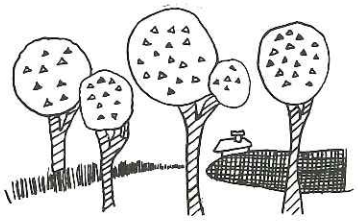
ここでは，主に先生方の海外学術交流に関わる業務を所掌しています。文部省の在外研究員，国際研究集会，日本学術振興会の各種派遣事業，国際協力事業団（JICA）等の研究者の海外派遣，また，各種制度による外国人研究者の招へい等があります。海外との学術交流も盛んになり，我が係も大変盛況で連日連夜仕事に追いかけられている状況です。ここでこの紙面をお借りして，お願いを申し上げたいことがあります。それは，先に述べました各種派遣・招へい制度に申請される折り，先方との連絡を綿密に取って計画し，研究日程等の変更のないよう（間違っても決定通知がきてから，先方と連絡をとるようなことがないよう）切にお願いしたいと思います。

その他の業務としては，国際交流に関わる業務として，学術交流協定校等からの大学への来訪者の接遇，外国人留学生の日本語の補講授業，学術交流協定校からのサマースクールの受入，外国人留学生を対象とした種々の行事（バス旅行，イヤーエンドパーティ，歓送会）等バラエティに富んだ業務を所掌しています。

また，昼間に外国人留学生の講師による教職員・学生を対象とした外国語講座（英語・中国語・ハングル語等）も，国際交流センター内で開講していますので，せいぜい受講ください。

外国人留学生の受入数が増加し，受入国も多様化している現在，彼等との少しの接点から感じたことは，彼等も本学の学生の一人であることに変わりなく，彼等に対する対応も少しずつ変えていく必要があるのではと感じている今日この頃です。

来年度は，留学生センターが新設され，学生部には留学生課も設置され，国際交流は，ますます盛んになっていくことと思います。



1996年度前期　**日本語クラス時間割表**（平成８年４月10日～平成８年９月18日）

		月	火	水	木	金
9:00 10:30	1	初級Ⅰ　加　藤 初級Ⅱ　河　地 初特Ⅱ　寺　島	初級Ⅰ　六　郷 初級Ⅱ　後　藤	初特Ⅱ　後　藤 中級　伊　藤	初級Ⅱ　河　地	初級Ⅰ　六　郷 初級Ⅱ　加　藤 初特Ⅰ　後　藤
10:40 12:10	2	初級Ⅰ　河　地 初級Ⅱ　加　藤	初級Ⅰ　後　藤 初特Ⅰ　六　郷	初級Ⅰ　伊　藤 初級Ⅱ　寺　島	初級Ⅰ　河　地	初級Ⅰ　加　藤 中級　後　藤 初級Ⅱ　六　郷
	昼休み					
13:00 14:30	3	医学部Ⅰ　寺　島			医学部Ⅰ　伊　藤	
14:40 16:10	4	医学部Ⅱ　寺　島			医学部Ⅱ　伊　藤	

前期授業：４月10日（水）～９月18日（水）
ゴールデンウィーク：４月27日（土）～５月６日（月）
夏休み：７月16日（火）～９月１日（日）

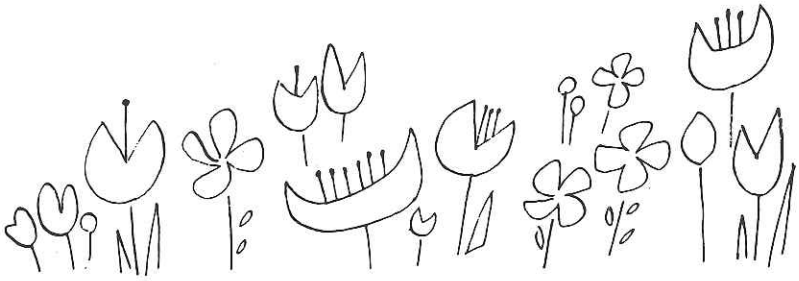
◎国際交流のための奨学寄附金

岐阜大学では，平成８年３月現在，218人の留学生が勉学・研究に励んでいます。また，学術交流協定大学として，カンピーナス大学（ブラジル），サンディエゴ・ステイト大学（アメリカ），浙江大学（中国），広西農業大学（中国），電子科技大学（中国），無錫軽工業学院（中国），浙江医科大学（中国），中国医科大学（中国），ルンド大学（スウェーデン），ノーザンケンタッキー大学（アメリカ），ソウル産業大学（韓国），サントトマス大学（フィリピン），グリフィス大学（オーストラリア）の７ヵ国13大学と提携し，学生・研究者の交流が行われています。本学の国際交流も広範囲にわたりますさかんになっています。

このような国際交流活動を推進するために，国際交流センターでは，留学生のための日本語や日本事情などの授業を始め，さまざまな行事を開催しています。こうした事業は，国の費用の他企業・団体等からの温かいご援助による奨学寄附金で運営されています。

平成７年度は岐阜大学における国際交流促進のために，次の企業・団体から寄附金をいただきました。皆さんにご報告するとともに，この場を借りて心よりの謝意を表したいと思います。

大垣共立銀行，十六銀行，大日本土木，田口福寿会，太平洋工業，イビデン，岐阜車体工業株式会社，中部電力岐阜支店，株式会社スギヤマメカレトロ，岐阜信用金庫，文渓堂，故横山一歩氏（前学生部次長），ユニオンテック株式会社，パイオニア貿易株式会社（順不同）



1995年度　岐阜大学国際交流センター員名簿

所属	氏名	備考・連絡先	所属	氏名	備考・連絡先
農学部	堀内孝次	国際交流センター主事 2846	工学部	松浦晃次	サマースクール総括 エクスカーション担当主任 2722
教育学部	松川禮子	国際理解教育担当 2315	農学部	原徹夫	ホームスティ・宿舎担当 2908
〃	佐原秀一	日本事情担当主任 2270	〃	前澤重禮	会計・宿舎担当主任 2898
医学部	奥野正隆	医療関係担当 267－2604	教養部	林正子	広報担当 3016
〃	加藤直樹	医学部広報主任 267－2343	〃	三浦陽一	日本語担当主任 3131
工学部	辻康之	学生担当 2570	医療技術短大	瀬戸﨑康子	歓送迎会担当主任 サマースクール総括(副) 262-1533

◎編集後記

「岐阜大学国際交流センター」としては最後のNEWSLETTERを，ここにお届けします。岐阜大学の国際交流活動の発展にともない，「国際交流室」から「国際交流センター」と名称が変わって1年 ― 1996年4月には，いよいよ「岐阜大学留学生センター」が開設されることになりました。この間，「国際交流センター」としては，No.21・No.22，2号のNEWSLETTERを発行。今回は，これまで紹介される機会のあまりなかった，岐阜大学外国人教師の方々，留学生の皆さんのご意見の特集です。

「外国人の見た岐阜大学キャンパス・ライフ」，「岐阜大学の国際化 ― 外国人としての意見 ―」というテーマで，ご意見・ご感想をお寄せいただきました。注記がないかぎり，原文はすべて日本語です。皆さんにとっては“外国語”で原稿を寄せていただき，広報担当者としては感謝の念にたえません。執筆者の方々，どうもありがとうございました。

第2特集は，岐阜大学が学術協定を結んでいる大学等に短期留学なさった学生さんたちの体験談です。限られた字数のなか，かけがえのない感動の体験を綴っていただきました。ひとりでも多くの岐阜大学学生さんたちに，＜留学＞を通しての＜国際交流＞にも関心を持っていただけたら幸いです。

それから今回は，学生課国際交流事務室の留学生係・国際交流係，おふたりの係長さんに岐阜大学国際交流についてのお仕事の内容をご紹介いただいたことも，特筆すべき事項です。「センター」職員の方々のお仕事の大変さに，改めて驚かれた方もいらっしゃるのではないでしょうか。

最後に，「留学生センター」の開設とともに，今後の岐阜大学国際交流がますます充実し，さらに，発展してゆきますよう，皆さんとともにお祈りして，「編集後記」に代えさせていただきたいと思います。ご執筆いただいた方々，読んでくださった方々，どうもありがとうございました。　（林　正子）

発行　岐阜大学国際交流センター
広　報　係
〒501－11　岐阜市柳戸1番1
☎　(058) 293－2141
ＦＡＸ　(058) 293－2143
印刷　昭和ぷりんと